

事後評価報告書(日中研究交流)

1. 研究課題名:「多次元センサー情報に基づく工場・ビル分野の環境負荷低減戦略に関する研究」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者:

三菱電機株式会社 先端技術総合研究所 主席技師長 森 一之

2-2. 中国側研究代表者:

同済大学 電子情報工学院 教授 Chen Qijun

3. 総合評価:(S)

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

ソフトウェアの面からの工場・ビルの省エネルギーを実現する実用的な技術につながる研究成果と評価できる。省エネルギー可視化システムは、日本側の夏の節電対策に活用できた。また、エネルギー供給における最適化手法が中国側の大学施設での省エネに有効であることを実証した。日本側は民間企業であるが、そうした制約の中での努力は称賛される。民間企業としてのコストパフォーマンスを記載してもらうと、今後、こうした事業の発展に役立つと考えられる。

(2)交流成果の評価について

中国側での研究交流会が多く、先方のニーズによく合致したテーマ設定であったと考えられる。若い研究員、学生の交流が実質的に行われ、両国の相互理解、共同研究につながる基礎ができた、と推測される。中国側大学院生の長期受け入れをしたことは、今後の継続的な交流につながるものと期待される。

(3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

多くの論文、学会発表、特許、表彰につながったことは高く評価されるものである。双方の国内学会でシンポジウムを主催し、共同研究の成果を集中発表したことは高く評価される。なお、中国側での実証施設が大学施設であったため、工場などとは異なる行動がとられた可能性がある。この事業による成果をもとに、さらなる発展として工場などでの効果を実証することにより、省エネルギー技術の広く中国への展開が期待される。